



## ここでしか出会えないものがある 柳ヶ瀬サンデービルディングマーケット

◆サンデービルディングマーケット実行委員会・岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会

7月18日（日）に、岐阜市の柳ヶ瀬商店街で、「第76回サンデービルディングマーケット（以下、「サンビル」）が開催されました。2014年から毎月開催されてきたサンビルは、コロナ禍で断続的な開催となっており、今回は5月・6月の中止を経ての3ヶ月ぶりの開催となりました。

### ■ 待ち望まれたサンビル再開

108事業者が出店した7月のサンビルは、天候にも恵まれ、開催を待ち望んでいた人たちが賑わいを見せました。そんな中、「お久しぶりです。また会えてよかった。これ買っていくね。」という、サンビルならではの、来場者と出店者のやり取りが聞こえてきました。

実行委員会の土肥彩香さんは、「サンビルを開催しない時期が続き、柳ヶ瀬商店街から人足が遠のいてしまっただけではないので、感染拡大に

注意を払いながらも、断続的に開催することは大切だと考えています。商店街の方々から理解をいただきながら、今回開催できたことはとても嬉しく思っています。」と話されました。主催者の開催できた喜びとともに、地域の人たちの理解を得ながら開催することの大変さ・重要さを感じました。

### ■ いつ来ても新しい発見があるサンビル

個性あふれる出店者が揃い、こだわりの商品が並ぶサンビルは、行くたびに新しい人やモノ、コトとの出会いがある場所です。また、毎回多くの出店希望者からの応募があり、来場者のみならず、出店者も待ち望んでいるイベントです。出店者の選考については、サンビルのコンセプトである、「ここでしか会えないひと」「ここにしかないモノ」「ここにしかない空間」を基準にするとともに、新たな出店者が1割程加わるように行われています。毎回、顔ぶれを変化させることで、来場者に常に新しい楽しみを提供しています。

回数を重ねる中でも、主催者は開催の都度、お客様や出店者、商店街の声に耳を傾け、工夫と改善を重ねています。「商店街で店を営む自分たちも行ける店があったらよい」との声から、野菜を販売する事業者の出店を、商店街の人たちが立ち寄りやすい場所へと変えたところ、地元の方が足を運んで下さり、好評だったそうです。こういった細やかな主催者の気づきがあるか



▲賑わいをみせるサンビル

からこそ、サンビルが長期にわたって継続できているのではないかと思います。

## ■ ボランティアスタッフから出店者へ

アクセサリショップを出店した「&u.」の安藤由奈さんは、サンビルが好きで、2年近く当日のボランティアスタッフに携わった経験がありますが、昨年からは出店者となり、サンビルとの関わりを続けています。もともとモノづくりが好きで、友達にアクセサリを作ってプレゼントしていたのですが、ボランティアスタッフを経験する中で、自分も出店者側に立ちたいという想いが徐々に強くなり、出店に至ったそうです。商品を作る際は、「あのお客様がこういうアクセサリをつけたら似合うだろうな」と、お客様を思い浮かべながら、1点1点、異なるデザインのアクセサリを制作しているそうです。安藤さんは、「どういってお客様が買ってくださいかを目の前で見たいです。人によって似合う商品が違うので、お客様にはぜひ商品を手にとって選んでほしいです。」と話してくださいました。安藤さんは、このような想いから、サンビルやイベントでの直接販売にこだわっている



▲&u. の店頭で接客する安藤さん

そうです。クラフト作家と、来場者の距離が近いサンビルは、作り手の想いが直接伝わる場だと感じました。

## ■ 作り手との会話が魅力

有機野菜を販売する「青市」は、昨年2月から出店を始めました。青市は、今回、店頭に立っ  
ていらっしやった大澤靖史さんを含めて、県内で農業に携わる若手5人で活動しています。メンバーの皆さんは、普段は農業をして、スーパー等に野菜を卸していますが、消費者の方々に自分たちが作った野菜のことを、直接説明して売りたいという想いで活動し始めました。サンビルではお客様の生の声を聞いたり反応を見たりすることができ、また、調理方法を伝えることもできます。お客様の方からこういう野菜を作ってほしいといった要望の声を受けて、その野菜の栽培を始めることもあるそうです。店頭で並んでいる「フダンソウ」や「ツルナ」といった珍しい野菜について、大澤さんから調理の仕方を教えてもらって購入しましたが、プロから話が聞けたという特別感があり、作り手から直接購入する消費者の喜びを、感じることができました。



▲青市の店頭で野菜について説明する大澤さん

## カフェから杓の魅力を発信する masu cafe (大垣駅前商店街振興組合)

masu cafeは、2018年に大垣駅前商店街にオープンしたカフェです。1950年

に創業し、長年にわたり杓を製造販売してきた、有限会社大橋量器により運営されています。

「masu cafe」の名からも想像できるように、店内ではいたるところに「枡」が活用されています。飲み物、食事、スイーツ等のあらゆるメニューが、枡でできた器で提供されるとともに、店内の装飾、照明、小物等、ありとあらゆるものに枡が使われていました。

## ■ヒノキ香る枡を活かす新感覚カフェ

masu cafeでは、あらゆるメニューが、「枡に合う」という観点で開発されています。例えば、ブレンドコーヒーは、ヒノキの香りに合うようにと厳選された豆を使用しています。また、昨年12月より販売開始となった、人気商品の「マスシフォン」は、枡に生地を流し込んで枡ごと焼きあげているとのことで、きめ細かなシフォンケーキと、枡のヒノキの香りとは絶妙にマッチした、他ではない特別な味わいでした。

masu cafeは、味のみならず、写真映えするカフェとしても評判です。取材当日も、10時の開店を待つ女性客が並んでいて、人気の高さを伺い知ることができました。牛島奈央美店長は、「9月頃には、店内やメニューをリニューアルしようと思っています。リピーターの方もたくさんいらっしゃるの、いつ来ても飽きないように、スタッフみんなでアイデアを出しながら運営しています。」と、お話をいただきました。



▲マスシフォン

## ■枡の新たな魅力を伝える店内装飾

masu cafeでは、枡を食器だけでなく、壁や、机、照明にも活用しています。枡を用い

た内装や、カフェで販売されている枡に関連する商品の多くは、社員のアイデアから生まれているそうです。枡の用途の幅広さに驚きを感じられる、いるだけでも楽しい店内でした。

最近では、カフェや居酒屋の店内を内装するための枡の注文も増えてきていると言います。カフェに凝縮された社員の皆さんのアイデアが起点となり、新しい需要が生まれているのではないかと思います。



▲枡で装飾された店頭立つ牛島店長

## ■「社員の個性」と「枡の魅力」とを掛け合わせた新展開

masu cafeは、社員の一人がバリスタ経験者であったことから実現した事業だということでした。また現在、店長を務める牛島さんも、飲食に興味があったことから店長に抜擢されたということで、現在は、本社の仕事とmasu cafeの仕事をともに担当されています。「カフェのスタッフも、枡の知識を身に付けること



▲店内で販売される枡に関連する商品

が重要」との会社の考えのもと、アルバイトスタッフにも枘の工場見学や、枘づくり体験の機会を提供しているそうです。社員の個性と、枘の

事業を掛け合わせて、これからもどんどんと新しい取り組みが生まれてくることを想像すると、とても楽しみになりました。

## ファッションで面白い街へ 古着ショップ「CHIC...! YOUNG CLOTHING STORE」 (多治見駅前商店街振興組合)

「CHIC...! YOUNG CLOTHING STORE(以下、「CHIC」)」は、多治見駅前商店街にある、古着を扱うお店です。オーナーの二橋直之さんは、ファッション業界で勤務後、2016年に「N style ENGINEER」の名で、服の着こなしについてのアドバイスを行う事業を名古屋市で立ち上げられました。その後、「スタイルエンジニア」として活動する中で、「生まれ育った多治見市をファッションの力でおもしろい街にしたい」との思いが強くなり、2020年10月にCHICのオープンに至りました。

「N style ENGINEER」の「ENGINEER(エンジニア)」の語には、課題解決したり、今ある現状をよりよくしたりする、という意味もあるそうです。ファッションはもちろん、街や社会等の様々な課題を解決したいという思いが、現在の活動につながっています。

### ■自分に合ったコーディネートが見つかる店舗づくり

店内は、二橋さんがファッション業界で培った知識とセンスを活かして選んだ、衣料、バッグ、小物が並べられていました。二橋さんのセンスに共感するお店のファンの方も多く、高校生から50代まで、幅広い年齢層の顧客に親しまれているといいます。二橋さんは、「お客様との会話の中で、要望にピッタリ合う商品が店内にない場合は、そのお客様のために商品を探して仕入れることもあります。だから、ここはモノを売っているというより、お客様が気に入ったも

のを見つけるためのヒントとなる、サンプルを置いている感じですね。」とお話くださいました。二橋さんは、店舗は商品売る場所であるのみならず、様々な着こなしの可能性を体感してもらう場所だと捉えているとのことでした。



▲オリジナルエプロン着用の二橋さん



▲こだわりの商品が所狭しと並ぶ店内

### ■ファッションで彩る街づくり

二橋さんは、「ファッションで彩る街づくり」というテーマで、多治見市で開催されたビジネスプランコンテスト「2020年TAJICON

創業部門」で、まちなかグランプリを受賞されました。長年ファッション業界に関わってきた二橋さんは、「着こなしを提案する力は、他業種であっても生かせると考えています。地域の多様な資源や情報を、ファッション業界で培ったコーディネート力を活かしてつなぎ合わせ、新たなものを生み出し、街の活性化へとつなげていきたいです。」とお話いただきました。

街や地域をファッションで活性化させる取り組みの中では、斬新なアイデアを、実現に結び付けたものもあります。そのひとつが、地元のクリーニング店に提供した、「古着を制服にする」という発想です。古着を使うことで、コストをかけずに良いモノを選ぶことができたそうです。そのみならず、古着は1点物なので、それぞれの社員の個性を反映させた制服選びができたことで、従業員のやる気向上にもつながったとの

ことです。

## ■学生時代からお世話になった商店街の力になれる活動を目指して

二橋さんは学生時代、学校の帰りや休日に、商店街のお店に立ち寄り、他校の生徒や、大人たちとふれあった経験が、地元への愛着につながっているそうです。今、学生が立ち寄れる場所が減ったことに寂しさを感じるとともに、自身が学生時代に楽しんだ活気ある街を、また取り戻したいという思いが、現在の活動の原動力になっているそうです。ファッション業界での経験を活かして新たな挑戦を続ける二橋さんの活動を通して、商店街や地域がさらに変化していくのが楽しみです。

【取材・記事 中小企業診断士 中畑久美子】

## ◆ 岐阜県新型コロナウイルス感染症対策

### 対策1 夏対策

#### <夏のリスク回避>

- 帰省については、これに伴う感染拡大を阻止するため、慎重に判断(特に感染拡大地域からの帰省は自粛)
  - 親戚同士の集まりや同窓会など普段会わない人との会合・飲食の自粛
  - 感染拡大地域への旅行・レジャーは自粛、バーベキューは同居家族で
  - 花火や夏祭りなどは、人と人との十分な間隔を設けて開催
  - 事業者は夏季休暇の取得可能期間を幅広く設定し、従業員の休暇を分散
  - 学校運営における夏季期間中の感染防止対策
    - ・児童生徒や保護者に対し、家族全員での感染防止対策徹底を予め周知
    - ・練習試合等は日帰りを基本とするなど、部活動の感染防止対策を徹底
- #### <オリンピック(7/23~8/8) パラリンピック対策(8/24~9/5)>
- 自宅や飲食店等での飲酒・飲食を伴う大人数のテレビ観戦の自粛

- バブル方式による事前合宿の感染防止対策徹底

### 対策2 感染防止対策の徹底(継続)

#### <基本対策>

- マスク着用、手指衛生、密回避、体調管理の徹底・継続
- 慎重な外出・移動
  - ・出張をはじめ、首都圏など感染拡大地域との往来の自粛
- 飲食時の感染リスクの徹底回避
  - ・小人数、短時間、深酒・大声なし、会話時はマスク着用
  - ・飲食は、「新型コロナ対策実施店舗向けステッカー」掲出の感染防止対策が徹底された店舗を利用

#### <飲食店支援>

- 飲食店等における感染防止対策の徹底
  - ・マスク推奨、換気、アクリル板等間隔の確保、手指消毒を徹底
  - ・アクリル板補助金の補助対象期間を昨年度購入分まで拡大

- ・新型コロナ対策実施店舗向けステッカーを認証制度として明確化。感染防止対策が不十分な場合、取消しも視野に実地調査を推進
- ・クラスター発生店は現地調査を行い、感染防止対策と営業再開を支援

### 対策3 デルタ株を念頭に置いた検査・医療体制の強化

- 県保健環境研究所で陽性となった全ての検体をスクリーニング
  - ・新たに導入した次世代シーケンサー（7/16稼働）を活用
- 予防的検査の拡大
  - ・高齢者・障がい者入所施設での検査を継続実施
  - ・通所・訪問系事業所やケアマネ事業所でも検査を実施（7/15～）
  - ・特別支援学校も対象に追加（8月中旬以降）
- 「自宅療養者ゼロ」堅持のための病床・宿泊療養施設の更なる確保

### 対策4 着実なワクチン接種の推進

- ワクチンの需給ギャップ解消(国への要請)
  - ・9月以降の供給予定の早急な提示

- ・都道府県調整枠の拡大
- ・大規模接種会場分のワクチン使途の柔軟化
- ワクチン接種体制の整備
  - (1) 市町村による集団・個別接種の着実な実施(外国人県民への接種含む)
    - ・7月末までに、希望する高齢者への接種は完了見込み
    - ・11月までの一般接種完了に向けて、市町村と接種計画を調整
  - (2) 市町村接種を補完する県の大規模接種会場における接種
    - ・岐阜圏域(岐阜産業会館)では歯科医師による接種を開始(8/7)
    - ・西濃圏域(ソフトピアジャパン): 7/17稼働開始
    - ・中濃圏域(岐阜医療科学大学): 7/17稼働開始。また、1,800人の外国人県民を対象とした接種も開始(7/24)
    - ・東濃圏域(セラミックパークMINO): 8/7稼働開始
    - ・飛騨圏域(飛騨・世界生活文化センター): 7/31稼働開始
  - (3) 企業、団体等の職域接種への支援
- 市町村における接種券の早期発行及び企業等のVRSへの迅速な登録

## ◆ 令和3年度当初予算 「ものづくり・商業・サービス高度連携促進事業」2次公募

### 1. 概要

本事業は、「コネクテッド・インダストリーズ」の取組を日本経済の足腰を支える中小企業・小規模事業者等に広く普及させるため、また、地域経済を牽引する事業がもたらす地域経済への波及効果をより高めるため、複数の中小企業・小規模事業者等が連携して取り組む、生産性向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行うための設備投資や幹事企業が主導し、中小企業・小規模事業者等を束ねて面的に生産性向上を推進する取組等を行う事業を支援するものです。

### 2. 公募期間

令和3年8月2日(月)～

令和3年9月17日(金) 17時

### 3. 説明会

令和3年8月24日(火)

15時～16時20分(予定)

(Microsoft Teams ライブイベント)

### 4. お問い合わせ

令和3年度ものづくり・商業・サービス高度連携促進補助金事務局

TEL: 03-5213-4058

**岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。**